

# 第16回協会賞 普及賞

## ■受賞者と授賞理由

### □減災館における学習・体感・研究を通じた免震技術の普及・啓発

受賞者：名古屋大学減災連携研究センター(代表:福和伸夫)

名古屋大学減災連携研究センターは2012年1月に発足している。この地域で予測される「東海」「東南海」「南海」の3連動地震などによる巨大災害に対して産官学民の地域密着型の連携活動を行い、研究、人材育成などを通じて減災戦略を構築していくことを標榜している。専任教員6名、3つの寄附研究部門を設置し、減災課題の研究・普及・啓発にあたっている。

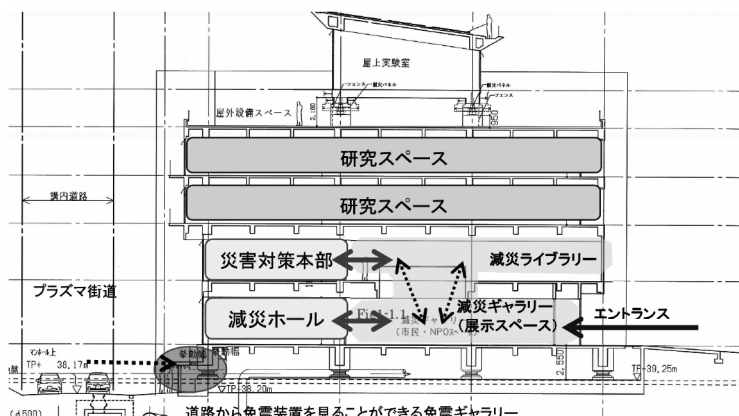
「減災館」とは同大学と地域の減災活動の拠点として計画されたものであり、同大学の災害対策室と減災連携研究センターが入居している。この施設は、自然災害や防災・減災に関して、「先端的研究」「防災啓発・人材育成」「災害対応施設」の3つの役割を担うものとしている。

特徴的な点は、建物全体がこれらの3つの役割を具現化する形で計画されている点であり、特に、免震・制振構造の様々な啓発・教育にも役に立つようになってきている。建物本体は積層ゴム、直動転がり支承、オイルダンパーからなる基礎免震構造となっており、訪問者はガラス越しにこれらの免震装置を観察することができる。さらに、屋上には410トン(本体に対する質量比7.3%)の実験室が、付加質量として、弾性免震装置を介して建物本体の周期にチューニングされた状態で設置されている。他にも免震・制振の多くの技術が実地で見学、体験できるように様々なアイデアが詰まった建物となっている。

「減災館」の竣工は2014年3月であるが、同センターの今日までの活動および、今後もさらなる普及活動が行われていくための十分な体制が築かれている点を評価し、普及賞を授与するものである。



建物外観



階ごとに機能を配置する断面構成



長周期地震動を体感することができる振動台